



プレスリリース No. 15/573

即時解禁

2015年12月18日

国際通貨基金

米国・ワシントン DC

IMF クリスティーン・ラガルド専務理事、米国議会による 2010年クォータ及びガバナンスの承認を歓迎

国際通貨基金（IMF）のクリスティーン・ラガルド専務理事は本日、2010年クォータ（出資割当額）及びガバナンスの改革を可能にするための米国議会による法案の採択を歓迎し、以下の声明を発表した。

「米国議会によるこれらの改革の承認は、世界金融の安定性を支援する IMF の役割を強化するための歓迎すべき、極めて重要な一歩である。これらの改革により IMF の主な原資が大幅に増加することから、我々は危機に対してより効果的に対応することが可能となる。同時に、世界経済におけるダイナミックな新興市場及び途上国の役割の増大をより適切に反映することになり、IMF のガバナンスが向上する。

加盟国を一段と適切に代表する近代的な IMF は、21 世紀の全 188 加盟国のニーズにより適切に対応することができよう」

背景情報及び有益なリンク

2010年クォータ及びガバナンス改革は、2010年12月総務会により承認され（[Press Release No. 10/477](#)を参照）、[2008年4月](#)に総務会により承認された初期の措置を基盤としたものである。これらの改革では、第14次クォータ一般見直し下で全加盟国のクォータを増額し、理事会の改革に関する IMF 協定を改正することで、初めて選任理事に一本化された理事会が誕生する。改革には、加盟国の総議決権の 85% という大多数の賛成を必要とするが、これには多くの場合議会の承認が必要だった。

2010年クォータ改革の重要な成果：

- IMF のクォータ原資の補強に合意した結果、全 188 加盟国のクォータは、約 2,385 億 SDR（約 3,298.3 億米ドル）から約 4,770 億 SDR（約 6,596.7 億米ドル）に増額される。
- クォータのシェアの 6% 超は、ダイナミックな新興国市場及び途上国へ、また過大評価されていた国から過小評価されていた国へ移行する。

- 新興市場 4 カ国（ブラジル、中国、インド、ロシア）は、米国、日本及び欧州四大国（フランス、ドイツ、イタリア、英国）と共に IMF 上位 10 カ国入りをする。
- 最貧国のクォータのシェア及び議決権は保護される。
- IMF の理事会は、初めて選任理事で一本化されることになり、任命理事は廃止される（現在、五大クォータ出資国が任命理事を擁立している）。
- 7 カ国或いはそれ以上の加盟国で構成される複数国から成る選出母体が第 2 理事代理を任命する可能性が増え、理事会における選出母体の代表権が強化される。
- 欧州先進国は、理事会の総議席数を 2 議席削減することにコミットしている。
- クォータ・シェアの移行及び選任理事に一本化される理事会への移行とともにクォータの倍増は、IMF のクォータ及びガバナンス改革のプロセスにおいて目覚ましい一歩となる。

IMF 理事会、クォータ及びガバナンスの大規模な改革を承認

<http://www.imf.org/external/np/sec/pr/2010/pr10418.htm>

IMF クォータ及びガバナンスに関する文書

<http://www.imf.org/external/np/fin/quotas/pubs/index.htm>

クォータ・ファクトシート

<http://www.imf.org/external/np/exr/facts/quotas.htm>

IMF の意思決定

<http://www.imf.org/external/np/exr/facts/govern.htm>